

H30 年度地域おこし協力隊 年間活動報告書 (1年目)

隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 丸田洋樹

・ BSS ラジオによる情報発信(随時)

毎週水曜日に生放送されるラジオ番組で、隠岐のイベントや旬な情報を本土の方々に伝えた。隠岐島内の様々な方に出演して頂いたので、ジオパークを認識して頂くきっかけにもなった。

・ GEOPARKmagazine Vol.6 対応(随時)

JGN(日本ジオパークネットワーク)が毎年発行している GEOPARKmagazine の対応を行った。今回発行された GEOPARKmagazine は表紙に隠岐ジオパークの写真(油井の前の洲)が採用された。

・ 外来種防除の実施(随時)

外来種、主に特定外来生物のオオキンケイギクを対象とした外来種防除について関係機関と協議を行い、外来種講習会や抜き取り活動を行った。特に、2019年3月9日に行った外来種講習会及びオオキンケイギク抜き取り活動では、20名以上の方に参加して頂き、外来種に対する知識を深めて頂いた。

・ パンフレット配布(随時)

フェリーや港、空港、隠岐自然館など、ジオパークが発行するパンフレットを適宜補充した。



・ 布施の山祭りに参加(4月)

隠岐の島町布施地区に伝わる伝統的なお祭りに参加し、隠岐の文化を体験した。

・ 島根半島・宍道湖中海ジオパーク&山陰海岸ジオパーク交流事業(4月)

レインボーチャーター事業を利用して、山陰地方のジオパークと交流した。内容は島根半島及び山陰海岸の各ジオサイト見学と交流会で、交流会では主に観光客に満足してもらえるジオガイドの養成について議論を交わした。

・ オオキンケイギク抜き取りの周知活動(4月)

中村地区、中集会所においてジオパーク学習会の広報を行った。また、特定外来生物オオキンケイギク抜き取りを環境省と協力し周知活動と防除活動の計画策定を行った。

・ JGN 新規認定プレゼンテーション・JGN 運営会議・JGN 交流会(5月)

幕張で行われた JGN の大会に参加した。日本ジオパークは現在 43 地域あり、各地域同士が連携して

ジオパーク活動を行っている。日本ジオパークの強みは横のつながりが強いことだと思うので、今後こういった大会には積極的に参加していきたい。

・ アジア太平洋地域ユネスコ国内委員会担当者研修会(5月)

ユネスコの方々を隠岐に招いて、研修会を開催した。研修会では、持続可能な地域開発や、ジオパークを活用した教育活動などが取り上げられた。

・ オオキンケイギクの抜き取り作業(5.6月)

環境省及びジオパーク推進協議会で実施している八尾川沿いのオオキンケイギク抜き取り作業を行った。当日は島根県隠岐支庁の方、隠岐の島町役場の方、地域住民の方々に協力して頂き、種をつける前の段階での抜き取りを行うことができた。

・ しずおか咲くセッション・伊豆半島ジオパーク視察(6月)

静岡県にて行われた事業承継フォーラム「しずおか咲くセッション」に参加した。このセッションでは主に事業承継について公聴した。また、併せて4月に世界認定された伊豆半島ジオパークを見学した。

・ 隠岐高校ビーチクリーン(7月)

隠岐高校生徒たちによるビーチクリーンが行われた。このビーチクリーンは隠岐高校ジオパーク探求の授業で計画されたもので、当日着用するオリジナルTシャツのデザインも生徒が行った。

自分は授業の段階からこのイベントに関わっていたので、無事にビーチクリーンを終えることができてほっとした。座学の授業だけでなく、こういったイベントを通して隠岐の魅力や環境保全について体験できるのは良い機会だと感じた。



・ 視察対応(8月)

島根大学の松本先生と大阪府高等学校地学教育研究会の方々が、地学教育研修として隠岐に来られたため、ジオ協地学研究員の平田さんと共に案内を行った。

視察では、アルカリ流紋岩とマントルゼノリスの話題が多く、隠岐の成り立ちについて勉強になった。専門家のお話を聞ける貴重な機会です、案内に同行できて嬉しかったです。

・ 取材対応(8月)

『島へ。』という雑誌の記者とカメラマンの方を案内した。自分は運転手兼地質地形の話を担当した。今回はジオパークツアーデスクの斎藤一志さんと同行する機会があり、島後の寺社について解説して頂けた。ガイド経験が豊富な斎藤一志さんの話は聞いていて面白く、取材をしている記者の方々も楽しそうに話を聞いていた。

・視察対応(9月)

IODP(国際深海科学掘削計画)の方達が隠岐研修で来島したため、案内した。

地球深部探査船(ちきゅう)に乗船し、調査を行っていた地質の専門家であったので、案内する内容も非常に専門的だった。また、ほとんどの方が外国人であり、英語の必要性を痛感した。

Rhyolite(流紋岩)や Basalt(玄武岩)などのよく使う専門用語を中心に覚えていきたい。

・島根県町村会 輝けイレブン(9月)

松江にて行われた島根県町村会『輝けイレブン』に隠岐ユネスコ世界ジオパークとして出展した。

主に子供に親しんでもらうことを想定し、絵合わせカルタやパズル、ジオパーククイズ、黒曜石探し等を展示した。

自分自身、こういった展示を行うのは初めてで、来場者の質問にうまく答えられるか不安であったが、子供や保護者が楽しむ姿を見ることができてホッとした。



台風の影響で2日間開催の予定が1日だけとなり、開催中は終日雨が降るなど、天候に左右されたイベントだったが、ジオパークについてアピールできるいい機会であったと思う。

・旅行者企画・営業担当者向けジオパーク研修(意見交換会)(10月)

JGN(日本ジオパークネットワーク)と島根県の主催で、旅行者を対象としたジオパーク視察研修が隠岐で開催された。研修の最後に行われた意見交換会では、旅行商材としてジオパークをどう扱っていくか等が話し合われた。当日は、JGNに加盟している5地域のジオパークが観光商品について発表を行い、各地域の魅力を旅行者にPRした。『地質・地形』がイメージされやすいジオパークを、いかにして多くの人を楽しんでもらうか、各地域の取り組みが見られて参考になった。

・海士町ジオサイトカルテ作成(11月)

ジオパーク推進協議会事務局研究員の平田さん岡田さんとカルテ作成を目的として、海士町のジオサイトを踏査した。各ジオサイトを回り、ジオサイトにアクセスする遊歩道の状況や、設置している看板の状況を記録した。

ジオサイトは観光地というだけでなく、教育や生涯学習に使える場なので、その場所がどういった状況になっているのか正確に把握していきたい。

・知夫村ジオサイトカルテ作成(11月)

海士町に続いて知夫村のカルテ作成の為、研究員の岡田さんと現地踏査を行った。

当日は昨年までジオ協事務局に所属していた知夫村役場の敷さんに案内して頂いた。

知夫村では主に立ヶ崎の崩落地を海側から観察し、現地の状況を記録した。立ヶ崎はドローンでの空

撮は見たことがあったが、実際に崩落現場に行くとその迫力に圧倒された。現地は遊歩道が整備されているわけではないので観光用としては使えないが、そういう場所があるという事だけでも知っておく価値があると思った。

・ 三陸 GP 支援研修会(11月)

条件付き再認定(イエローカード)を受けている三陸ジオパークの支援を目的とした研修が陸前高田市、宮古市にて行われ、隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局長の野辺さんと共に研修会に参加した。研修会では主に隠岐ジオパークの取り組みを紹介した。

隠岐の取り組みを通して三陸ジオパークのジオパーク活動がより良いものになればと思う。

・ 隠岐ユネスコ世界ジオパーク再認定記念シンポジウムの開催(12月)

西ノ島町中央公民館にてジオパーク再認定を記念したシンポジウムを開催した。シンポジウムには基調講演として、オリンピック水泳競技にて日本代表を務めた山本すずさん(旧姓千葉)を招き「水を通しての出会い」について講演して頂いた。

また、隠岐高校魅力化コーディネーターの野辺みなもさん、環境省隠岐管理官事務所の湯澤孝介さん、事務局長の野邊一寛さんにそれぞれ講演して頂き、現在の隠岐ジオパークの取り組みを紹介した。このようなシンポジウムを通して、隠岐の方々にジオパークを改めて認識して頂くのは大切なことなんだと実感した。

・ 東北学院大学和田先生アテンド(1月)

宮城県の栗駒山麓ジオパークのアドバイザーを務めておられる東北学院大学地域構想学科の和田教授が、隠岐ユネスコ世界ジオパークの取り組みについてヒアリングを行いたいとのことだったので、4日間にわたり島前島後を案内した。島後では八幡さん、野邊さん、斎藤一志さん、斎藤正幸さん等にヒアリングを行い、島前では焼火神社の松浦宮司、隠岐しぜんむらの深谷さんにお話を伺った。自分はそれぞれの有識者と和田先生の対談に同席させていただいて、ジオパークへの見識が深まった。



隠岐ジオパークは発起人の方々が現在まで先頭に立って指揮を執っている。今の世代が引退した後、どうジオパークを運営していくのか、今後はより持続可能な考え方が必要だと感じた。

例えば、ジオパークの理念や思想をより多くの島民に理解して頂く体系づくりや、後継者育成に力を入れるべきなんだろうと思った。

・ JGN 中四国近畿ブロック会議(1月)

Mine 秋吉台ジオパークにて行われた JGN 中四国近畿ブロック会議に出席した。

中四国近畿ブロックは、世界ジオパーク 3 地域(隠岐・山陰海岸・室戸) 日本ジオパーク 5 地域(四国西予・南紀熊野・Mine 秋吉台・島根半島・萩) ジオパークを目指す 2 地域(三好・土佐清水)の計 10 地域で構成されており、ブロック単位での連携を取った活動が進められている。

会議では来年度以降の幹事地域を決定し、各ジオパークの取り組み状況について共有しました。

他のジオパークの取り組みを見れる機会はなかなかないので、自分にとって貴重な機会になった。隠岐がどういう地域か語る力も必要だが、日本列島という特殊な「変動帯」の中で隠岐がどういった立ち位置なのかを、より深く理解する必要があるのではないかと感じた。

・エコフェスタ in 隠岐(2月)

まちづくり運動協議会生活環境部が主催しているエコフェスタ in 隠岐に、ジオパーク推進協議会と環境省の合同出展を行った。五箇小で環境省と連携して行った漂着ゴミの授業内容の報告や、子供でも楽しめる絵合わせカルタ・パズル、岩石標本や、ジオパークと国立公園それぞれの映像展示を行った。



エコフェスタの参加者は家族連れが多く、子供と遊べるカルタやパズルが人気だった。足を止めて映像展示を見ていく参加者もいて、特殊な地形の成り立ちをざっくりお話した。岩石

標本に興味を持ってくれる人が思いのほか多かった。これをきっかけに隠岐の成り立ちについて興味を持っていただければ嬉しいと思う。

・離島キッチン 隠岐のお気に入り研究所(3月)

島根県自然環境課が隠岐ジオパークの PR を目的として東京都日本橋の離島キッチンで実施した隠岐のお気に入り研究所に参加しました。このイベントは、インフルエンサーである柴田紗希氏をリーダーとしてワークショップ形式でツアーの造成を行うというものであり、自分は島根県の伊藤氏と共に隠岐ジオパークの観光資源を紹介するために参加しました。イベントの参加者は主に 20 代女性で、参加者からは「海辺で貝殻拾いをしたい」「海を見ながらヨガをしたい」「オキタンポポを見たい」などの意見が出ました。自分だけでは気づけない、新しい隠岐の観光資源に気付かされたイベントでした。

・外来集講習会及びオオキンケイギクの抜き取り活動の実施(3月)

昨年から計画していたオオキンケイギクの抜き取りイベントをジオ協が主催、環境省・町立図書館が共催、隠岐高校・役場環境課が協力といった形で実施しました。

参加者が10名を下回ることも危惧されていましたが、好天に恵まれたこともあり、スタッフを除いて26名もの参加者に参加して顶けました。まず、外来種講習会を図書館研修室で実施し、環境省と隠岐高校の発表を行いました。隠岐高校の発表では、オオキンケイギクの葉を使ったしおりを作成し、オオキンケイギクの特徴を学んで頂きました。

作成したしおりを手に八尾川河川敷に向かい抜き取り活動を行いました。今回の抜き取りは初めて参加される方も多く、最初はオオキンケイギクを見分けるのに苦戦していましたが、高校生や経験者と共に抜き取ることによって次第に慣れていき、イベント終盤ではほとんどの方が1人で抜き取ることができていました。

オオキンケイギクの生育状況は事前に下見していましたが、抜き取り活動を行うと予想以上に多く生育しており、今後も継続的な抜き取り活動を行う必要があると感じました。



・島前島後高校生交流事業(島前開催)(3月)

海士町で行われた、島前島後高校生交流事業にジオパーク推進協議会のスタッフとして参加しました。この事業は、島前島後の高校生が持続的につながり、協働できる環境を整える事と、お互いの地域や隠岐についての興味関心を高めることを目的としています。

今回は島前での開催となった為、島前高校のヒトツナギ部が主体となり、海士町の宝さがし(魅力発見)と、島前島後が共同できるプロジェクトについてのディスカッションを行いました。

今まで、島前島後の高校生が交流する機会が無かったとの事なので、この事業をきっかけとしてさらに発展的な交流へつなげていけたら島前島後の距離感も縮まるだろうと思います。